

整形外科領域の感染症鑑別における好中球 CD64 値に関する研究

整形外科関連感染症(化膿性関節炎、脊椎炎)や整形外科術後感染症の診断は、臨床所見や WBC、CRP などの炎症マーカーでは鑑別し難いことが多く、診断の遅れから重症化することがあり、早期診断が重要である。好中球 CD64 分子発現量(以下 CD64)は各種感染症での有用性が報告されており、骨軟部感染症や整形外科術後感染症鑑別においても有用であることが示されている。

本研究では特に感染症のリスクが高い症例(透析施行患者や関節リウマチなどで免疫抑制剤を使用している患者等)の整形外科術後感染症の鑑別や、化膿性脊椎炎など重症化を起し得る整形外科関連感染症の鑑別における CD64 の有用性について検討する。また整形外科手術後感染症の鑑別における血中 CD64 値のカットオフ値を求め、術後感染症の早期鑑別に用いることが可能かについても検討する。さらに化膿性関節炎や化膿性脊椎炎の鑑別において、臨床所見や、従来の炎症マーカーでは判別し難い症例について、血中 CD64 値により感染症の早期鑑別や治療効果の判定が可能であるかについても調査する。

この研究は後向き研究であり、検査結果は個人情報判別できないようなデータ処理法により臨床研究に利用される。

各患者データの臨床研究への利用は、患者本人の意志でお断りいただくことが可能であり、この場合患者が不利益を被ることはない。